

【イタリアレニャーニ校訪問 生徒の感想】※一部抜粋

① レニャーニ生とのディスカッションで気づいたこと。

- たくさんの人が音楽を聴くことで何が実現できるか、という問いの答えが日本の生徒とは大きく違っていました。多くの日本人は、「言葉の壁を超えて同じ感動や気持ちを共有できる」と答えたのに対し、イタリア人は、「音楽を聴くことで自分を表現することができる」と答えてくれました。まわりとの関係より自分のため、というところに国民性の違いを感じました。
- 自分のプロジェクトは「日本の学校制度について」だったのですが、聞いていくうちに、レニャーニ生は自分たちの教育に対し、大変さは感じながらも、誇りに思っているように見えました。例えば、「ものすごい量を一週間に覚えなきゃいけないの。すぐ忘れちゃうんだけど将来どこかできっと使えると思うんだ」と最後ポジティブに捉えている人が多かったです。実際英語力がとても高い学校でしたので、結果もしっかり出ているのも要因の一つだと思います。また、“詰め込んですぐ忘れる”や、“学校で寝てしまう”など、学生のやってしまうことは同じなのだなと思いました。

② どのような議論が生じたか。 自分がうまく伝えられたこと、伝えられなかったこと。

- 「毎日寿司を食べてるんでしょ？」と聞かれることがとても多かったので、「月に一回食べるか食べないくらい」と伝えると少しがっかりされました。また、相撲は女子もやるものと思われていたり、マスクをしているのが珍しいのか、なんのためにつけているのかと問われたり、かっこいいと褒められたりしました。自分にとって当たり前のことを改めて考え直し、新たな視点で見ることができたので、日本の様々なことを上手く伝えられたと思います。

上手く伝えられなかったこととしては、「習い事」についてです。日本では、小さい頃から楽器を習っている人が多いのもあり、今でも楽器を扱えるという人が多数いました。しかし、イタリアの生徒のほとんどが小学校でやったリコーダーしか吹いたことがない、なにも弾けないと答えていました。そこで、日本のように習い事という文化はないのか、と問いたかったのですが、「習い事」を英語で何と説明したらいいのかわからず、結局上手く伝わりませんでした。歴史や経済などの話もしたのですが、そういう話には知らない単語が多かったのと、そもそも日本のことなのに知らないことがあり、もっと勉強しようと強く思いました。

③ イタリアの家庭生活、学校生活、教育、文化、社会で気が付いたこと。

- 学校では、日本に比べて時間を守ることにに対する意識が弱く、チャイムが鳴ってから全員が教室に戻り席に着くまでかなりの時間かかっていましたが、先生たちもそこまで気にしている様子はありませんでした。しかし、終わりのチャイムが鳴った瞬間に、み

んなノートを閉じて片付け出すのは少し面白かったです。また、ホストの生徒たちが私たち日本人と同じ授業を受けに来て何も言われないのです。自分のクラスの授業があるのに、みんな体育の授業と一緒に参加していました。まさに「ゆるい」という感じでしたが、逆にのびのび学んでいるところもあるように感じました。またほとんどの学生が土曜日の夜は、学校外の友達と遊ぶのが習慣でした。そしてどんなに夜遅くなっても、またどこへ行ったとしても、必ず親が車で迎えに来てくれました。街のいろいろなところに教会があったのですが、どの教会も中が美術館かと思うほど立派で驚きました。

- イタリアの家族は毎食食事を一緒にする家族が多いのだと思いました。日本の高校生と違い、夜中まで遊ぶことは当たり前のようでしたが、一度家で家族と夕食を食べてから行っているようでした。また、日本のように交通機関が充実していないためか、親が車で学校や遊びに行く所へ送って行くことも目立ちました。イタリアの電車などは常に遅れていて、学校や様々なことで時間にルーズでした。
- とにかくまずどこに行っても共通しているのは、外国人に対して（同じようにイタリアの子供に対しても）とってもフレンドリーなことです。

英語ができる・できないに関係なく私たちと話そうとしてくれました。これは本当にどこに行ってもです。もちろんシャイな子もたくさんいましたが、それでも私たちが受け入れをした時とは比べられないほど学校での受け入れはとてもあたたかかったです。

④授業について どのような様子か。

- 英語の授業で、多くの生徒がわからない単語や文があったらその場でパッと手を挙げて質問していました。日本ではそれぞれが辞書を引くだけですが、全員で共有できれば、その方が授業は滑らかに進むし、みんなが学べるのでとても良いと思いました。またその授業では教育について扱ったのですが、日本では小学1年生の時から1人で電車に乗って学校に通っている子もいるのに対し、イタリアも含め、アメリカやオーストラリアなどでは14歳ごろまで親の送り迎えで登下校していると習いました。日本がどれだけ平和なのか、また、子供の自立が他の国よりかなり早いということを初めて知りました。ある授業では、日本だったら大学で学ぶような経済を生徒が英語でプレゼンテーションしていました。それを聴いている生徒も理解し沢山質問していたし、レベルの違いを感じました。
- すごく自由な感じだなというイメージでした。日本のように恥ずかしがることなくみんなが発言していて、私たちにも今何をやっているかや、その他色々なことを教えてくれてイタリア人の生徒とたくさん話すことができました。